

つくし野の防災訓練(11/15)に、自分も参加してみましょー！！

防災訓練のメリット

- ◆参加しないと記憶に残らない、記憶に残ればあわてない。イザというとき体が覚えている。
- ◆最低年1回実施されるので、いろいろな経験を積み重ねられる。
- ◆ご近所の方々と、コミュニケーションが深まる。
- ◆自宅の備え(自助)の意識が高まる。

防災訓練は、自助と共助の実践の場です

11月15日の防災訓練は

前半：各自治会単位で個別の訓練を実施(3丁目はセントラルパークで安否確認集計訓練)

後半：つくし野4自治会合同で、つくし野小学校にて6種類の訓練を実施

(1) 3丁目自治会 防災訓練(8:50~9:30)

- ◆パーク西側 防災倉庫前に集合
- ◆来場者は出席受付を行い、ゼッケンを受け取る。
- ◆主催者側の主旨説明等(この間、防災倉庫内備蓄品等が見られます)
- ◆まとめて、つくし野小学校へ移動



(2) つくし野自治会連合 合同防災訓練(10:10~11:30)



- ◆このチラシが各戸配布されています。
- ◆つくし野4自治会合同(今年の主催は2丁目自治会)で実施。
- ◆毎年、秋のこの時期に開催。
- ◆消防署、消防団が詳しく説明します。
- ◆6種類の実地訓練が体験できます。(10:40~)
 - ①震度体験訓練(起震車で大地震の揺れを体験)
 - ②煙体験訓練(火災の煙を体験)
 - ③初期消火訓練(消火器を使ってみる)
 - ④通報訓練(災害発生を的確に伝える)
 - ⑤AED訓練(ダミー人形を使って心肺停止蘇生訓練)
 - ⑥はしご車体験(消防側のデモと、住民の搭乗体験)

6つの訓練は同時並行で実施されますが、いくつ体験してもOKです。

6つの訓練を、流れに即して見てみましょう。



震度体験訓練

起震車（ぐらり号）に搭乗し、震度7（◆）の揺れを実際に体験します。

◆震度6弱：立っていることが困難、固定してない家具の大半が移動
ドアが開かなくなったり、窓ガラス破損になることも。

震度6強：這わないと動けず、飛ばされることもある。

固定していない家具のほとんどが移動、倒れるものも多い。

震度7：耐震性の低い木造建物は、傾いたり倒れたりが多くなる。
固定していない家具のほとんどが移動・倒れ、飛ぶことも。
耐震性の低い鉄筋コンクリート建物も、倒れるものが多い。



家族及び
隣近所の
安否確認

通報訓練

消防機関に正しく通報するための訓練。どんな被害状況で、どんな救護を求めているか。119番通報のやり方、電話種別でのやり方の違いなど。

◆知識：家族間の安否連絡取りには、NTTの「171伝言ダイヤル」が有効
この日は自宅家電話で試せます（毎月1日、15日が体験日）



煙体験訓練

火災等で煙に巻き込まれた状況を、煙ハウスで体験

初期消火訓練

火災発生時、周りに知らせ、
消火器で初期消火に当る



逃げる
火を消す
助ける

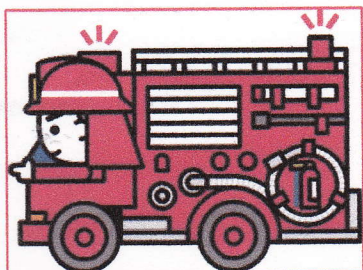
AED訓練

心肺停止状態が生じた時、救急車が来るまでの間、胸骨
圧迫・人工呼吸とAEDを使った蘇生応急措置の訓練

はしご車体験

（人気のブース）

一番伸ばした状態で、消防側で高所消火・救出デモ。
1段伸ばし状態での、住民の搭乗体験



訓練参加者全員に、ペットボトルを
お子様には飴のつかみ取りも